

## 乳房再建について

### 乳房再建とは

乳がんの手術によって失われた組織を、人工物または体の一部を使って出来る限り元の形に近づけるための手術を「乳房再建」と呼びます。乳房切除後、再建を希望しない患者さん、再建手術はしなくても補正下着やパッドなどを使用し皮膚の上から乳房の形を整える患者さん、再建を希望する患者さんなど、選択肢は様々です。ここでは、再建手術がどんなものなのか簡単に説明します。再建手術に興味のある患者さん、するかしないか迷っている患者さんはお気軽に外来でご相談ください。



### 乳房再建の時期

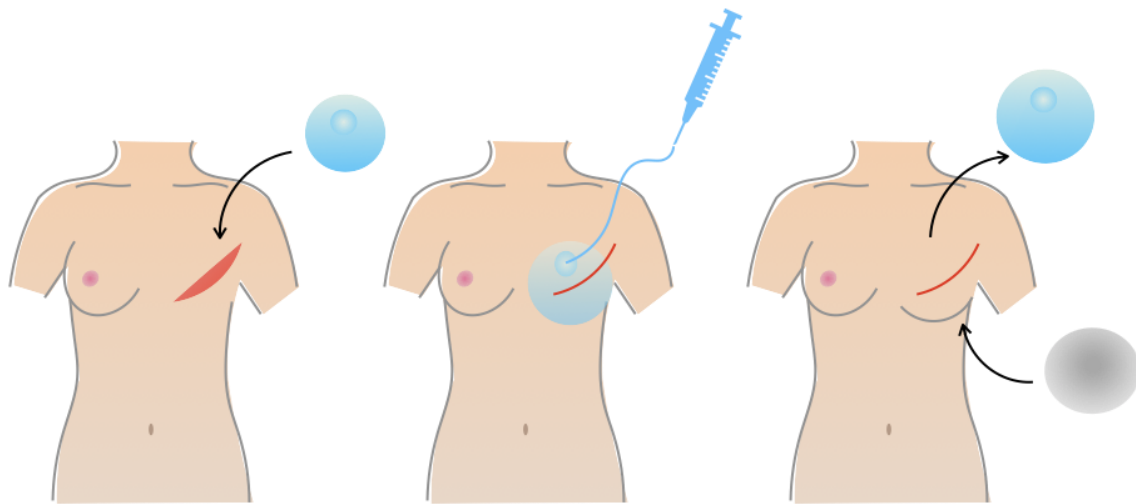
乳がんの切除と同時に再建手術を行う一次再建と、乳がんの治療が落ち着いてから再建手術を行う二次再建とに分かれます。一次再建では乳房が全くない状態を過ごさなくてすむという利点があり、また二次再建では乳がんの治療にまず専念し、再建についてゆっくり考える時間があるという利点があります。

### 乳房再建の種類

人工物（インプラント）を用いる方法と、自家組織（背中やお腹の皮膚・脂肪・筋肉）を用いる方法とがあります。

### <人工物（インプラント）を用いた再建>

人工物（インプラント）を用いた再建では、通常2回の手術を要します。初回手術ではインプラントを入れる部位の皮膚を伸ばすためにティッシュエキスパンダーという丈夫な水風船のようなものを乳がん切除部位に埋めて皮膚を縫い閉じます。その後2~4週間毎に外来通院し、ティッシュエキスパンダーに生理食塩水を少しずつ注入して膨らませていきます。半年間程度行うのが一般的です。皮膚が十分に伸びたら、後日インプラントに入れ替える手術を行います。自家組織を用いた再建と比べると、身体的な負担が軽く手術時間・入院期間は短いのが利点です。



#### 利点

- ・身体的負担が小さい
- ・手術時間・入院期間が比較的短い
- ・体の他の部分に新しい傷を作らなくて済む
- ・早期の社会復帰が期待できる

#### 欠点

- ・最低2回の手術が必要
- ・乳房の下垂や動きはあまり期待できない
- ・乳房上部の自然な膨らみは出せない
- ・感染した場合、人工物を取り出さなくてはならない
- ・被膜拘縮の可能性はある
- ・10~15年で入れ替えの必要がある

入院期間：ティッシュエキスパンダー、インプラント共に7~10日前後

入浴・シャワー：術後1~2週間程度はシャワーのみ。（患部は濡らさない）

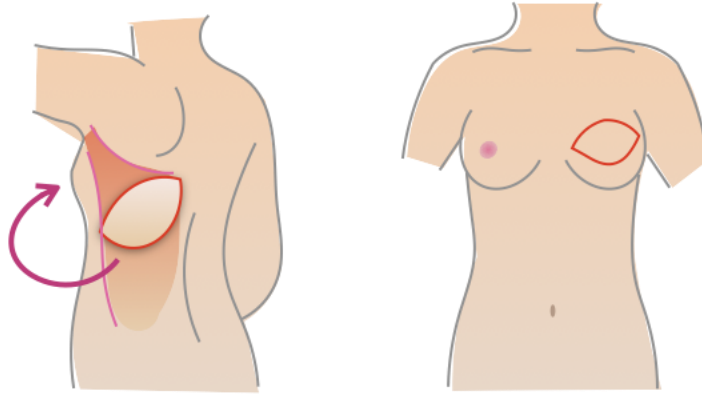
運動：術後早期より歩行などは可能。術後1ヶ月程度は腕を高く上げる動きや、激しい運動は控えましょう。

<自家組織を用いた再建>

背中の筋肉・脂肪・皮膚を用いた「広背筋皮弁」や、下腹部の脂肪・皮膚（一部、筋肉含む場合があります）を用いた「腹直筋皮弁」「深下腹壁動脈穿通枝皮弁」などがあります。

●広背筋皮弁

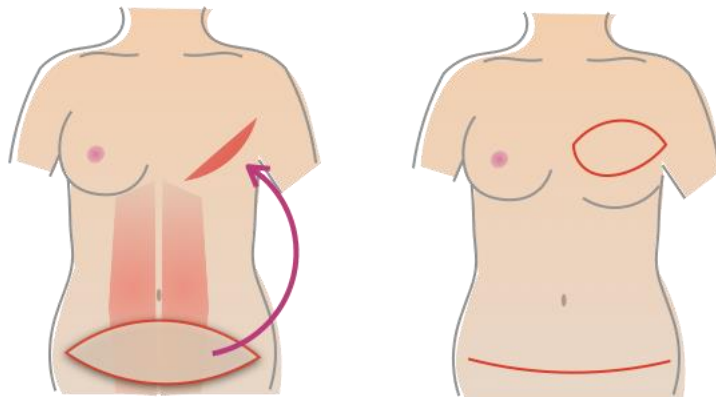
背中の筋肉・脂肪・皮膚を血管がつながった状態で乳房側に回して再建します。乳房の部分切除後や、もともとあまり胸が大きくない人には良い適応です。



●腹直筋皮弁・深下腹壁動脈穿通枝皮弁

腹直筋皮弁では下腹部の脂肪・皮膚と一部の筋肉を血管がつながった状態で乳房側に回して再建します。深下腹壁動脈穿通枝皮弁では血管を一度切り離し、顕微鏡を使って胸の動脈につなぎ直します。下腹部は背中と比べると脂肪が豊富なのでボリュームが必要な再建には適しています。組織を取った部分の傷は広背筋皮弁に比べると長くなってしまいます。

後々出産の希望がある方はこの手術を受けられません。



自家組織を用いた再建は、インプラントと比べると身体的な負担が大きく、手術時間・入院期間は長くなります。血管吻合（顕微鏡を使ってつなぎ直すこと）をする場合はさらに手術時間が長くなります。

## 利点

- ・人工物を用いずに再建できる
- ・ある程度の下垂や動きのある再建が可能（複数回の手術が必要な場合あり）
- ・乳房上部の膨らみもある程度作れる

## 欠点

- ・身体的負担が大きい
- ・術後数日間はベッド上での絶対安静が必要（歩行不可）
- ・手術時間・入院期間が長い
- ・再建のために体の他の部分に長い傷ができる
- ・皮弁壊死の可能性はある

入院期間：広背筋皮弁 7～14 日程度、腹直筋皮弁・深下腹壁動脈穿通枝皮弁 10～14 日程度  
入浴・シャワー：数日間はベッド上安静のため不可能。抜糸（7～14 日後）まではシャワーのみ。**その後の傷**の状態に応じて入浴可。

運動：術後数日間はベッド上安静。退院後も 1～2 ヶ月は激しい運動や傷を伸ばしたりするような動きは控えましょう。